

平成 15 年 6 月 18 日
東 京 都

小笠原諸島への航空路の検討状況について

基本的な考え方

- ・ 既存施設(硫黄島の滑走路等)の利用などを含め検討
- ・ 技術開発の動向なども踏まえ、幅広く検討

現時点での検討案

	概 要	課 題
1 硫黄島活用案	硫黄島の防衛庁の滑走路を利用 東京 硫黄島(ビジネスジェット)、 硫黄島 父島(ヘリコプター)	硫黄島基地共用化のための調整
2 水上航空機案	東京 父島を水上飛行機の直行便 で結ぶ 父島に揚陸施設、エプロンの整備	想定機材(US - 1A 改)の開発・民用転換 民間用の型式証明取得に年数と多額の開発費が必要
3 洲崎地区活用案	父島洲崎地区に通勤用 - 用の滑走路 東京 父島(通勤機)	就航率の確保 水面の一部埋立等を実施するため環境保全策が必要
4 聳島案	聳島に大型の滑走路 東京 聳島(中型ジェット)、 聳島 父島(高速船)	空港建設に加えて聳島・父島間の航路開設が必要 環境保全策が必要

上記のほか 1 ～ 3 案に共通的な課題として、輸送人員の制約や運航支援などの問題がある。

現在の検討状況

平成 13 年度 上記の各案を検討し、課題を整理。

平成 14 年度 各案に対する需要予測、環境面に及ぼす影響等の検討等を調査。

平成 15 年度 平成 14 年度の調査を踏まえ、さらに詳細な調査を実施するとともに
運航主体や運航への支援策等の検討を行う予定。